

盛岡聴覚支援学校

研究テーマ

「対話的な学びを通して『思考力・判断力・表現力』を育む」（2年次研究2年目）

1 全体研究

「対話的な学びを通して『思考力・判断力・表現力』を育む」（2年次研究2年目）

(1) 主題設定の理由

将来社会で生きるために必要な思考力・判断力・表現力の向上を図ることが重要であり、そのために幼児児童生徒個々の実態に合わせた音声、手話、文字、指文字を活用した対話、わかりやすい授業を工夫する中で言語力を伸ばすことが有効であると考え。また、本校ではかかわりの中で、自分と相手の違いを知り、その違いを認め合い心が育つと考え、対話を大切にしている。そこで各生活年齢に合わせ、対話を大切にしたい人とのかかわりを通して、思考力・判断力・表現力を育てる研究を進め、学習活動に生かしていく。

(2) 各学部研究(2年次)

①幼稚部

「人とのかかわりを楽しみ、自分でやってみようとする姿をめざして」

心を動かされるような体験を積み重ね、教師や友達と共感し合い、人と通じ合って嬉しい、楽しいという気持ちを積み重ねることで、自分でやろうとする姿がみられるようになった。

②小学部

「生徒の考える力・伝える力を高めるために」
～主体的なコミュニケーション活動をとおして～

授業の構造化、思いや考えを表現する学習活動、教材教具の工夫を重ねた。思考・表現を支えるのは言葉の力であり、学習活動全体において言葉の力を高める実践を継続する。

③中学部

「聞こえにくい自分を肯定的に理解(認識)し、自ら考えようとする生徒をめざして」～自立活動における体験的・対話的な活動をとおして～

中学部自立活動指導内容を作成し、計画的・系統的な指導を行った。体験的、対話的な活動を続けたことで、生徒が自分の意見や気づきや考えを話したり、文に表現し書いたりできるようになった。

④高等部

「生徒の考える力・伝える力を高めるために」
～主体的なコミュニケーション活動をとおして～
自立活動「自己理解」「コミュニケーション」の授業の取り組みを中心に組み、相手に対する配慮やわかりやすいコミュニケーションの必要性等、生徒自身の中から気づきが生まれてきた。

⑤寄宿舎

「対話を深め、『思考力・判断力・表現力』について共に考え、必要な力を育む」

～柔軟に対応できる力を育むための支援～

2年間の研究実践で、対話を深めることにより、舎生が将来の社会生活の中で様々な問題に直面した時に、主体的に向き合う力が生まれつつある。

(3) 今年度の実践

①全校研究会

4月：校内研究2年目の方向性の確認

9月：各学部の研究について中間報告

1月：2年次研究のまとめ

②学部研究会(10回)

各学部でテーマを設定した研究会

③全校授業研究会(東北聾研指定授業)

小学部1、2年自立活動「日記を発表しよう。よく聞いてカードを探そう。」

2 講演会

演題：「思考し、表現する力を高めるための授業実践」

講師：金沢大学 人間社会研究域学校教育系
教授 武居 渡 氏

期日：令和3年7月28日(水)

参加者：56名

3 研修会

- ・東北聾教育研究会 小学部会研究会主幹
- ・岩手県難聴言語障がい教育研究大会

4 他の教育研究機関との連携

- ・全日聾研島根大会(10月14～15日)

※オンライン参加

- ・東北聾教育研究大会(7月・11月)